

『光る君へ 7』

下関市豊田町の^{むくろうじ}杓路子にまつわる、紫式部と同様に^{しょうし}彰子に仕えた和泉式部の伝説を紹介します。

和泉式部が身重の体で旅をして産んだ子と別れた地の目印に杖をさすと、やがて枝葉が出て大きな木に育ちました。その木はムクロジ（無患子）で、子が病を患うことが無いと書き縁起が良いとされています。そのため、羽根つきの黒い玉として使われたそうです。羽根つきは子が健やかに育つという縁起を担いだ遊びなのですね。

山陽小野田かるた協会 久保 久美子